

平成31年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、全国と比べ高く、一定の定着がみられます。特に「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均に比べて、高い定着があり、継続した取り組みの成果がみられます。「話すこと・聞くこと」については全国平均をやや上回る結果であり、この点を伸ばすことによってさらにバランスの良い国語の力が定着すると考えます。
- ・数学の平均正答率は全国とほぼ同等であり、一定の定着がみられます。「図形」については、学習の成果がみられますが、一方「関数」、「資料の活用」に課題がみられます。「関数」の分野については、表・式・グラフを関連づけて解釈する力に課題がみられます。既習の関数がどのような表・グラフになるのか力をつける必要があります。「資料の活用」について、代表値を求めることはできているものの、その意味を理解していない生徒が多いです。
- ・英語の平均正答率は、全国と比べ高く、一定の定着がみられます。特に「話すこと」において、基本的な文法や表現を用いて、応答する問題は、全国平均を大きく上回っています。一方、聞いたり読んだりして理解した内容や、与えられたテーマについて、自分なりに書いたり話したりする問題の正答率が低く、無解答も高いことから課題だと考えられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向が見とれる項目
基本的な生活習慣に関する項目には、よい傾向の回答が多いです。
- ・「学校の規則を守っていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「部活動に参加していますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
読書に関連する項目が、低い割合です。
地域との関わりに関する項目が、低い割合です。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・授業の見直しをもって取り組み、振り返りを行うことで、誰にでも「わかる」「できる」授業を目指して取り組んでいきます。
- ・生徒の活動を認め、褒めることで自己肯定感の向上を目指します。
- ・コミュニケーション能力の向上を基礎として、授業や学級活動などいろいろな場面で言語活動を取り入れ、自分の考えや思いを伝え合う活動を積極的に取り組んでいきます。
- ・プレゼンテーションなど自分の考えや思いを表現する活動を多く取り入れていきます。
- ・「関数」の学習では、事象を元に表・グラフ・式の関係に関連づけてとらえられるような活動を取り入れていきます。「資料の活用」についてその代表値がどんな意味を持つのか数学的活動を通して定着させていきます。
- ・「英語」における、書いたり話したりする活動を多く取り入れていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭で自主学習への取り組みを継続して実践できるように、声かけをお願いします。
- ・自主学習の目標レベルを高められるように、内容へのアドバイスをお願いします。
- ・新聞を読むことや読書の後に、親子で感想を聞き合うなど時間をとってください。